



ひとりぼっち ゼロ PROJECT

ニュース No.62
2023.9.1**<平和学習会> 平和への願いをこめて、聴覚障害者の戦争体験が語られました。(7/23・参加者 96名)**

昭和20年6月5日の神戸大空襲で父を亡くした山村賢二さん(神戸在住)の戦争体験が絵本になりました。学習会では絵本を作られた小城智子さん(神戸空襲を記録する会)が山村さんとの出会い、絵本制作時の思いや絵本に描かれた戦争についてお話しされました。



長田区文化センター大会議室

小城智子さん



小林賢二さん

続いて山村さんと同じ兵庫県立聾唖学校の生徒であった小林賢二さん(明石在住)が戦中・戦後を差別にさらされ、それに耐えて、生き抜いた人生を語られました。優生裁判の原告である小林さんご夫妻の苦難の人生に参加者が真剣に耳を傾けました。

終戦当時、同じ聾唖学校初等部4年生だった大塚登代子さんは戦時中の寄宿舎の生活や大空襲で学校が燃え、命からがら逃げた様子を映像が見えるように語られました。

戦中・戦後を懸命に生きて来られた3人の聞こえない人のそれぞれの経験が伝わってきました。戦争のない世界、いのちが脅かされることのない、差別のない社会の実現をめざして、これからも活動を続けていきます。



大塚登代子さん

★きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT 全体会を開催(6/25)

全体会では2022年度の活動報告・会計報告と2023年度の活動計画・予算案を確認しました。

全体会終了後、「災害への備えと避難情報～自分や大切な人の命を守るために～」というテーマで神戸市危機管理室の危機管理監に神戸市の災害対策等についてお話いただきました。

質疑応答では、災害発生時の情報支援はどうか、避難所での情報・コミュニケーション保障はあるのかと、質問がでました。情報取得の手段や手話通訳の対応についてはこれから検討していきたいとの返答でした。災害時に情報が入らず、コミュニケーションがとれないと孤立します。命や暮らしを守るための支援から取り残されないよう、しっかりとした取り組みが求められます。

★兵庫優生裁判第3次提訴**7/11 神戸地裁で第1回口頭弁論期日**

支援者らがピンクの布地に応援メッセージを寄せ書きして、入庁行動をしました。

法廷では原告の川野正子(仮名)さんが強制不妊手術受け、提訴に至るまでの経緯を陳述し、「誰にも相談できず、辛い、悔しい思いに耐えてきた。国が悪いことをしたのだから、裁判所には正しい判断をしてほしい。」と訴えました。

報告集会では弁護団弁護士が「最高裁で勝つことが目標だが、被害者は高齢となり、判決を待てない。国会と内閣に働きかけて早期の政治解決を求める。」「国を動かすパワーは原告が闘い続けること、新たな提訴、みんなの声とマスコミの力が必要。」と今後の方向を話されました。

第3次訴訟の次回期日は

10/10(火)15時からです

連絡先：きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT 事務局(神戸ろうあ協会内)

TEL : 078-371-3071 FAX : 078-371-3052

E-mail : hitoribotch_0@yahoo.co.jp

https://www.normanet.ne.jp/~hitori-0/

